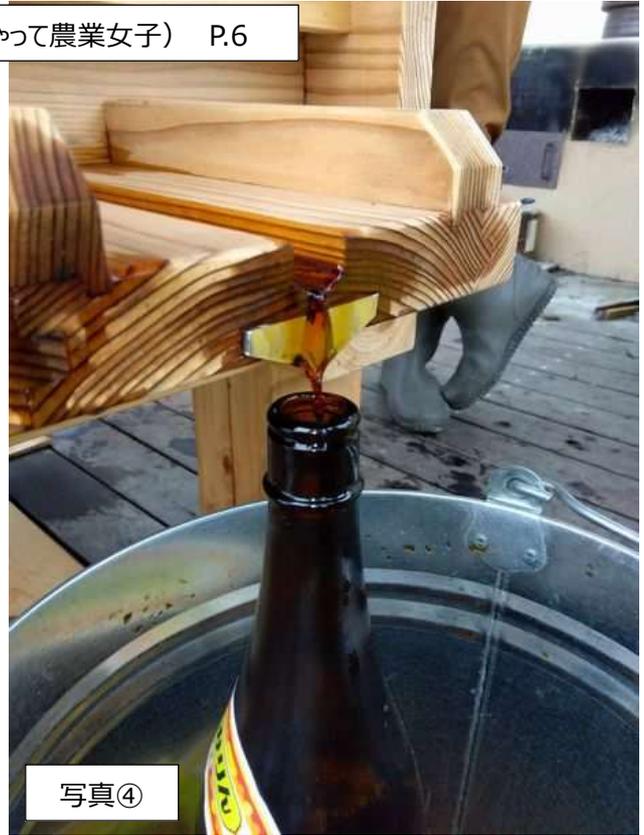


醤油絞りイベント（なんちゃって農業女子） P.6



写真③



写真④



- ✦ 作らずにはられない 電光掲示板への長い道
- ✦ STEMz マンガ文庫 蔵書紹介
寝屋川市立中央図書館にある学習マンガ紹介 その3
- ✦ 滝行の楽しみ3
- ✦ 新連載 洋子のイスキヤ物語①
- ✦ うたかた話(32) 古文(随筆)関係 (9)
- ✦ 今月の五行歌
- ✦ なんちゃって農業女子(29)
- ✦ 「人の命」と「健康」と
「ふつうの人間らしい暮らし」を求める裁判
- ✦ イベント紹介/会計報告

「LIP編集局」

<https://love-dugong.net/lip/>

連絡先

メールアドレス：lip@love-dugong.net

TEL：070-5653-6913 (18時以降)



シリーズ『作らずにはいられない』(25)

電光掲示板への長い道

人類は“作る”動物だ。石器時代から営々と、自らの手を使い、様々なものを作り出し続けてきた。あふれるほどのモノたちが簡単に手に入る文明の時代に生きる私たちが、ふいに先祖返りのように“作る”衝動におそわれるときがある。

このシリーズは、そんな「作らずにはいられない」、ひとりの男の記録である。

電光掲示板を作りたい。

新幹線とかの車内で、もうすぐ到着とか、ニュースとか流れているやつみたいな。

もう何年も前から、ずーっと作りたいと思いつつ、なかなか実現できていません。

でも、少しずつ進展はしています。実現に必要な技術が、少しずつ蓄積されてきました。

必要な技術を挙げてみると、(1)マイコンのプログラムで、日本語文章を画面に表示する(2)その文章をスクロールさせたり、点滅させたりする(3)表示する文章を、手軽にいろいろ変更できるようにする(4)変更する文章は、マイコンをWiFiにつないで、ネット上の情報から取得できるようにする(5)ネット上情報だけでなく、任意の文章にも変更できるようにする(6)大きな画面に表示できるようにする、など、多岐にわたります。実際に作っていくうちに、どんどん増えたりします(^_^);



試作品1

試行錯誤の積み重ねで、現段階では(1)から(5)までは目途がついてきました。

また、技術面だけでなく、どんな情報を画面に表示したら喜ばれるのか、ということも考える必要があります。

こういうのは、実際、どんな状況で使うのかを考えないと、思い浮かびません。

そこで、またまた、わたしが使わせてもらっている、枚方市駅前コワーキングスペース「ビーゴ」内で使えるものを考案中。

ここに掲示して、利用している会員さんに役に立つものを作れば、ほかの場所での運用のノウハウも蓄積できるという算段です。

「ビーゴ」はビル内にあり、窓がないので、外の様子がまったくわかりません。集中できてそれが良い点とも言えますが、用足しに外出してみたら雨が降っていたとか、めっちゃ暑くなってたとか寒くなってたとか。そんなことが良くあります。傘持って出たら、上着着て来たらよかったのに…。

そこで、考えたのが、「降雨情報」。あと30分後に雨が降ります、とかいう情報を流したらどうか。めっちゃ降ります、とかの情報は役に立つかも。ネットから直近の降雨情報はゲットできます。

外気温情報も。いま枚方市内は39℃です、とか0℃です、とか。

これまでに、うちのベランダの気温を測定する百葉箱みたいなガジェットを作ったことがあるので、その技術を応用することで実現できそう。

京阪電車が事故で止まっています、なんて情報もあったらいいな。

近所のお店のランチ情報とかもあればうれしいかも。ちなみに市駅近辺のお昼時は、どこもけっこう混みあって、行列待ちだったりします。

そんなこんなを考えてると、かなり楽しい。今年中には実現できるでしょうか(^_^);

(LIP/ビーゴプログラミング部
わたなべ)



試作品2

STEMz マンガ文庫 蔵書紹介

寝屋川市立中央図書館にある学習マンガ紹介 その3

11月号に引き続き、寝屋川市立中央図書館にあるマンガを紹介します。

年末年始を迎えて「家族」との距離がより感じられやすい時期ですよ。遠くにいる親や兄妹、近くにいる家族、たまに会う親戚などなど、久しぶりすぎてちょっと距離感が掴めない…、なんだか遠慮しちゃう…。そんな気苦労もセットでやってくる年末年始という特別な時間、皆さんはどう過ごされましたか？

年末年始の過ごし方も、ずっと同じと思いきや少しずつ変わってきたような気がします。毎年同じメンツだったとしても、それぞれのステージがあって、お互いの変化も感じやすい時期なのかもしれません。

そんなわけで今回ご紹介する作品はどちらも「家族」をテーマにした作品です。

大家さんと僕 大家さんと僕これから
著：矢部太郎



1階には80代というより90代目の超高齢大家さん、2階にはトホホな芸人の僕との「ふたり暮らし」を描いた作品です。

挨拶は「ごきげんよう」、好きなタイプはマッカーサー元帥(渋い!)、牛丼もハンバーガーも食べたことがなく、2階に住む「僕」を俳優と勘違いしている……。

一緒に旅行するほど仲良くなった大家さんとの“二人暮らし”はどんな暮らしなのでしょう!?

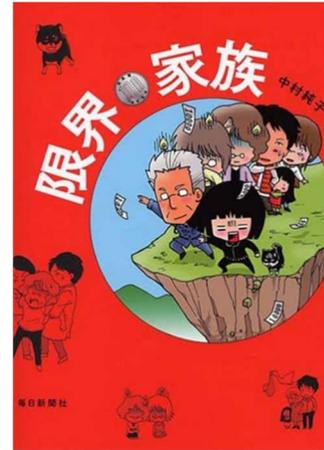
一緒に住むのが家族とは限らなくたっていいじゃないと思うけど、実際には家族以外の人と一緒に住むことは様々な面でハードルもあるしメリットもない。婚姻や血縁以外の繋がりでも、一緒に住んだら家族みたいなつながりが認められたり、社会的な役割を果たしていると胸を張って言えるといいんじゃないかなと思うんです。

契約で縛られた関係じゃないと何かあったときに責

任が発生しないっていうのは分かる。

でも、そうやって縛らないと成り立たないようなシステムだから「家庭」「家族」に責任が重くのしかかってしまうのも事実。困ったときに家族以外の人でも手を差し伸べやすいような世の中になったらこの閉塞感みたいなものが少しは和らぐんじゃないかなと思いたい。

限界家族 著：中村純子



父は借金1億円、母&兄は重い病、弟はワープア、そして私はアラフォー未婚女子!! 家族を笑え! 新感覚“底辺”コミックエッセイ。

底辺〇〇ってよく聞きますよね。底辺家族、底辺学校、底辺サラリーマンとか？

みんな下をみて「自分はまだ大丈夫」って思いたいのかもしれないし、底辺〇〇を煽るメディアの策略か!?

世間に溢れる「絆」や「家族」という言葉のキレイさやワンサイドからみたイメージに私は辟易してしまうのですが、皆さんはどんなイメージがありますか？

家族がいたら幸せとか、子どもがいて、孫がいてっていう世代が繋がっていくことが当たり前みたいなのところがありますが、家族ってそんなにキラキラした物じゃないし、どちらかと言えば面倒な部類っていうのをコミカルに描いた作品です。

多かれ少なかれ悩みが尽きない「家族」という集団との付き合い方は、まさに人生のテーマ。「生きてりゃそりゃ何かある」くらいの心持ちで大きな波を乗り越えていきたいものです。

(みんなでつくる学童STEMs そふえ)
[STEMz マンガ文庫]で検索!

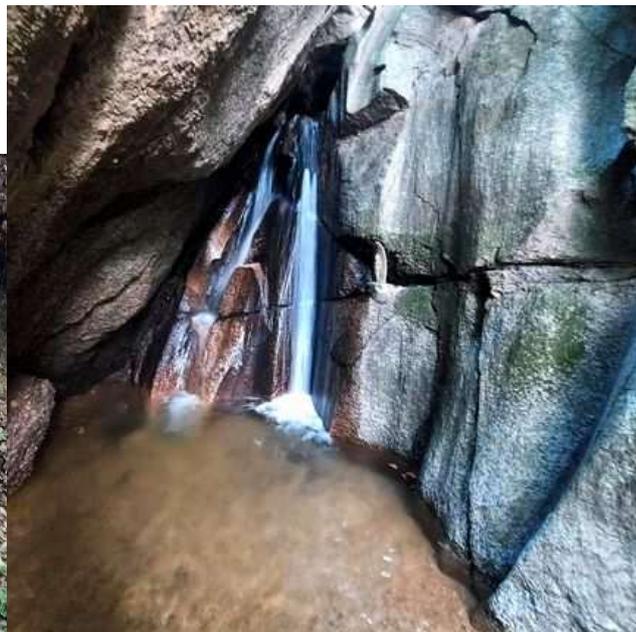
『滝行』の楽しみ ③

月の輪滝（交野市私市）

滝行というよりも水垢離に近い感じを受けます。

周辺にはハイキングされている方も見受けられました。
松瀬（L I P 編集部）

＝☆＝☆＝☆＝☆＝☆＝
大阪府交野市私市
[月の輪滝
(つきのわのたき)]
＝☆＝☆＝☆＝☆＝☆＝



新連載

佐藤初女さん初期講座を終えて 洋子のイスキヤ物語①

この講座の報告をする前に「佐藤初女さん」について少しお話しします。青森県弘前市の自然豊かな森の中にて『森のイスキア』という、生きる希望を失った方の居場所づくり活動をされておられた女性で、初女さんの心のこもった素朴な手料理と初女さんの何気ない一言で生きる力をもらえた、特に初女さんの「おむすび」を食べて自殺を踏めとどめた、拒食症で何も口にできない方が、食事ができるようになった、などなどイスキヤに居場所求めて来られる方を受け止めて来られた女性です。

初女さんはすでに亡くなられてますが、その意思を引き継いで「心のケア」や「生きづらさを抱えた方の居場所作り」をされている『イスキヤの郷しらかわ』にて、昨年9月9日～11日の二泊三日で研修を受けてきましたので、その話を何回かに分けてご報告させていただきます。前回初女さんの本の紹介をさせていただきましたが、初女さんご自身も女学校時代に死ぬほどの病気を経験し、薬や治療よりも「食べる事」が大切だと気づき「いのち」をいただくこ

とを大切に生きてこられました。私も初女さんの生き方に感銘を受け、「私の憧れの人は佐藤初女さん」でした。

福島白河に『イスキアしらかわの郷』があり、そこで初女さんのマインドを学べるということで研修を受けてきたのですが、とても素晴らしい出来事の連続でしたのでこの機会にその話を連載いたします。

研修の内容は、佐藤初女さんの飾らない生き方についてやカウンセリングマインド、なぜ人はメンタルを病むのか？など数々です。その研修の1つ1つが充実した物でしたのでご紹介しますね。前置きが長すぎて、本題に入れませんが、初日の初回は「しらかわイスキヤ」を開設された代表の舟木さんの話と、参加者の自己紹介でした。大阪から私を入れて3名、東京から2名の女性5名が二泊農家民宿にて学び食し大人の合宿を過ごした報告です。続きはまた……

(文／木村洋子)

「伊勢物語」の32, 33を抽出して書きましたが、歌集と云いまして我が国最初の勅撰和歌集は「古今和歌集」此が総ての始まりと言われていています。その昔には「万葉集」がありました。しかし万葉集は日本語では書かれていません総ては中国風の万葉仮名で書かれています。その意味では日本の歌集とは言い切れないのです。その万葉集でさえ今だに読めない所があります。それは「莫囂円隣之」の言葉も解説不可能な言葉です。

この様に万葉集は未だに解説がありますが、「古今和歌集」にはその様な所はありません。解説の必要がない訳です。と云いますのは「古今和歌集」は日本語で書かれて居ます。其処が『万葉集』と大きく異なる所です。

一方「伊勢物語」は何故「伊勢」なのか、それには何か理由があったのか、何も判っていません。何も「伊勢」の事を書いてはいません。それに『伊勢物語』と題をつけています。それは解説にも色々書いていますが、どれ一つをとっても「伊勢物語」を表題と題詠を決定つける物は有りません。

解説の通りで人々は色々憶測していますがどれも確定した物ではなく憶測に過ぎません。

- 1) 伊勢という作者の名前から『伊勢物語』が出て来た。
 - 2) 伊勢斎宮の話が巻頭を占めているから。
 - 3) 伊勢国に関係づけていわれる説。
 - 4) 男女間の情事を主とするからという説。伊は女、せは男と云う説で男女の物語という説
 - 5) えせ物語の転化とする説
 - 6) 天地の物語という説
- 等いろいろ言われていますが。どれをとっても此の本の題名を確定する事は出来ません。『伊勢物語』は在原業平の歌集だと考えるのが一ばん適当ではないでしょうか。此処では今後ともそう言う意味で取り扱っていきたいと思います。此処に載っている歌は在原業平が作った物が多く「業平歌集」であるという人も居ますが、それも完全な真実だとは思われません。と云う事は『伊勢物語』の『伊勢』とは何のことが良く判らずに我々は使ってきた事になります。我々は「伊勢」といえば「伊勢物語」であり、在原業平の歌集であるかの如く在原業平の歌が多くあります、という事には間違い有りません。彼の歌集は有ったのですが、それが散らばっており何処に行ったのか判りません。今となっては結局は無いのと同じことに成ります。

『伊勢物語』の歌を集めれば彼の歌集になると思い、「伊勢物語」から歌だけを書き出していますが中々纏まらず、次に移れないのです。歌を纏めると言う事は中々大変な事です。『伊勢物語』はなにゆえに『伊勢物語』なのか、それもはっきりしません。枚方に関係あるのは『伊勢物語』の八十二と八十三です。それは枚方の「渚の院」の事が書かれているからです。

前にも書きましたが「渚の院」は此処にしか書かれて

いないのです。そして現在は「渚の院」は幼稚園の一角を占めているだけで『土佐日記』に書かれている様に松が有り、桜がある、大きな広い場所では有りません。

「渚の院」の事も「枚方の歴史」には載っております。「枚方の歴史」の八十九ページに有りますが、「枚方の歴史」でも同じですが今ではそれらの総ては現実と異なっていますが、何処の歴史でも同じことだと思いますが、岸和田の様に建物が残っていると(岸和田では建物が残されています)何か証拠になる物が残っていれば良いのですがそれが無いとは其処に何かあっても消えてしまいます。何処でも同じ事だと思えます。

「伊勢物語」の八十二と八十三と二カ所に連なって惟喬親王のことが惟喬の親王として書かれています。「渚の院」については交野の「渚の家」として書かれています。

「伊勢物語」にもはっきりうたわれており「渚の院」が『交野』則ち枚方に会ったのは確かです。惟喬親王が水無瀬と交野に遊ばれ歌を作られたと云う事も確かな事です。

●馬の守(在原業平の事です)の歌として
世の中にたえて桜のなかりせば春の心はのどけからまし

●又人の歌として紀有常の歌が書かれています
散ればこそいとど桜は目でたけれうき世に何か久しかるべき

●その次は交野の宿の話です。馬の守と有りますから在原業平の事ですが、
狩り暮らしたなばたつめに宿からむ天の河原に我は来にけり

●その返しとして紀有常が
一年にひとたび来ます君まてば宿かす人もあらじとぞ思ふ

と歌いました。水無瀬にかえりまして、親王は相当に酔って寝所の入ろうとしました所、馬の守はあかなくにまだきも月のかくるるか山の端にげて入れずもあらなん

●親王に替わって紀有常が
おしなべて峯もたむらになれななむ山の端なくは月も入らじを
と歌いました。

「伊勢物語」八十三では惟喬親王が三室で仏門に入り給える事になります。そこでこのお話は又次にします今回は之で終わりとします。

今回もPCのWikipedia及び文庫本の「伊勢物語」等のお世話になりました。

「おしまい」  小田川徳男

LIPが選ぶ

今月の五行歌

望みは

口に出したら

消えるそうだから

アレよ、ほら

アレ

いぶやん

大きなお腹ごと

産院前で五秒のハグ

イマドキのカップルときたら

朝っぱらから もうっ

いいなあ

となぎ

人生そろそろ最終コーナー

何やってきたんだろう、私

思い惑う毎日

何やってきたんやろ、わて

大阪弁で言うどわらける

桑本明枝

五行歌(ごぎょうか)とは……五行で書く短い詩。字数や季語などの制限はなく、自分のおもったこと、感じたことを、そのまま言葉にして書きます。枚方では、五行歌ひらかた歌会が、8月を除き月一度歌会を行っています。
(連絡先: akie.toyotaka@gmail.com
または 090-5893-5635・豊高)

No.29

なんちゃって農業女子(笑)

今回のお話も直接「野菜」と関係ない話ですが、先日勉強してきた「醤油絞りのイベント」のご報告です。

前回の報告でも登場した、滋賀県近江高島の「双楽園」を拠点に開催されている少人数の教室のプログラムの1つです。今回のイベントは春に「醤油の仕込み」をされた方の続きなのですが、仕込んでない私も先日の「ハーブ苗の植え付け」に参加した事がきっかけで誘ってもらったのです。

醤油は、寒さがピークの2月に仕込み、寒くなってきた11月から絞るそうです。今回の絞り師さんは「三重県」の奥伊勢から来ていただいた方で、絞る機械も手作りです(写真①)。

帰られる時に分かったのですが、道具一式(樽や袋はもちろん、火を炊く大きなドラム缶や釜も)三重県から持って来られてました。

まず漬け込んだ醤油の元(大豆と麴と塩)の樽にお湯を加え緩めます。味噌汁の味噌を溶く感じですよ(写真②)

ゆるくなった物を写真③(表紙)のように「麻」で作った大きな袋に柄杓で小分けして、きれいに平

らに伸ばしながら口は折り曲げてこぼれ出ない様に重ねていきます(文章では伝わりにくいので

すよね)。それを何回も繰り返し袋の層を何層にもして、それ自体の重みでしばらくは絞ります。そのあと、圧をかけていきますが、その写真がなくてスイマセン。

絞終わったら「火入れ」をし「灰汁取り」をすることで長期保管が可能になります。写真④(表紙)の様子最後の最後絞り切っている物は「生醤油」と言って「生」なんて、長期の保管には向きません。でも、はじめて舐めさせてもらった「生醤油」の味は、とてもまろやかで美味しかったです。昼食時にはその搾りたての醤油を使って手打ちうどんをいただきましたが、めっちゃくちゃ美味しかったです。

眼下に琵琶湖が望める絶景の場所で、初めての醤油絞り体験はめっちゃくちゃテンション上がりました。来年は仕込みから参加予定!

(へそくん)



～「人の命」と「健康」と「ふつうの人間らしい暮らし」を求める裁判～

原発賠償関西訴訟第43回期日の報告

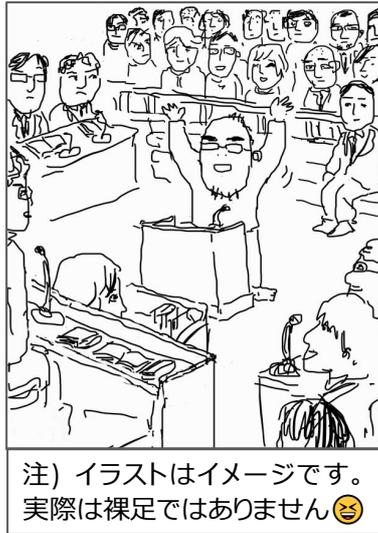
11月30日(木)大阪地方裁判所で原発賠償関西訴訟第43回期日が開かれました。この裁判は、2011年3月の東京電力福島第一原子力発電所事故で関西に避難してきた人たちが国と東京電力(以下、東電)に対して起こしたものです。

この日の期日は大法廷で行われ、傍聴席の抽選は行われましたが、席に少し余裕があったため抽選に間に合わなかった私も法廷に入ることができました。

午前中尋問を受けた原告は、彫刻家の男性です。3月11日家族で内陸部にあるショッピングセンターに買い物に行っていた時に地震発生。家族は無事でしたが海沿いの自宅は津波ではほぼ全壊と知り、ショッピングセンター近くにある友人のギャラリー前の空き地で一夜を過ごしました。翌日カーナビのテレビのニュースで1号機の爆発を知り、真っ先に考えたのは、高校生であった娘の健康を守らねばということ。とりあえず妻の実家のある新潟近郊に向かい、そこで避難先を探しますが、丸太を手斧で叩いて刻む技法で制作している、彫刻家としての生業を続けていくためには、アトリエ兼住居として一軒家が必須です。しかし、なかなかそんなところが見つかりません。「じゃ、いっそ行きたいところに行こう！」家族皆が行きたいところは、古の美の宝庫・奈良。広げた奈良の地図に見つけた美術短大附属高校に問い合わせると、娘さんの受け入れOK。奈良への移住を決めました……。原告代理人の弁護士に問われ避難の経緯を語るうち、当時の状況を思い出して気持ちがこみ上げ言葉に詰まる原告さん。裁判官も、原告団の原告たちや弁護団、国と東電の代理人たち、傍聴席の皆も、次の言葉が出るのを待ち、法廷は30秒近くシーンと静まり返りました。

法廷では個人の名前を言ってはいけないきまりになっています。しかし、いろんな方から当時言われた言葉を再現するときについて自分の名を言う原告さん。その都度裁判長から「個人名は言わないように」と注意されたり。東電の代理人からの尋問で、「震災前と避難移住した後では作品は変わりましたか？」という問いかけに対し、「作品の作り方や形態は変わらないけど、波動が変わりました」と答え、裁判長が「『はどう？ どういう字を書くんですか？』『波』に、『動』く、で『波動』です」「波動が変わるってどういうことですか？」「作品が放つ雰囲気、エネルギーの状態です」。代理人からの質問はそこで終わりましたが、その話もって聞きたいぞ～という空気が法廷内に流れたり。尋問が進むうちに涙あり笑いあり憤りと赦しあり、その場にいるひとたちの心がつながりあい、大法廷の天井が開いて大自然とつながっているような、そんな不思議な感覚を覚えました。

避難後原告は東京で個展を盛んに開き収入は増えたので



注) イラストはイメージです。
実際は裸足ではありません(笑)

はないですかと、避難が原告に経済効果をもたらしたのではないかという示唆を与えるような質問を繰り返す国の代理人からの尋問に対して一つ一つ丁寧に答えた原告は、最後に「訴えたいことはありますか」と原告代理人に問われ、東電の津波対策の怒りによって原発事故が起き、国民と国土の上に大量の放射性物資が降り注いだこと、それが原因で多くの被災者と避難移住者が生まれ今日に至っていること、今も原子力緊急事態宣言が発令されており、ぼろぼろの原発は原子炉内の燃料デブリの状況も分からず、次の大地震が起これば再びどうなるか分からない現状であると話して、午前中の尋問は終わりました。

お昼のミニ集会の後、午後はまず原告一人に対する本人尋問。約10分の休憩をはさんで、15時から9月の第41回期日で主尋問に立った専門家証人である本行忠志・大阪大学名誉教授に対する反対尋問が行われました。第41回期日で本行教授がパワーポイントで説明した「福島原発事故の被曝影響についての考察」について、特に低線量被ばくの影響に関するところが質問に出るのだろうと予想されていたのですが、順に尋問に立った東電の代理人や国の代理人の発する問いは、(いったい何を言っているのだろう?)と質問の趣旨がよくわからないことが多かったです。本行教授も、「何を聞いておられるのでしょうか?」と聞き返されることがありました。国の代理人からの質問で、原発事故後福島近辺で多発している小児の甲状腺がんについて、「過剰診断ではないか」と問われ、「悪さをしないような『おとなしいガン』を手術で執ることを『過剰診断』と言いますが、現場で治療にあたったS医師からは、『おとなしいガンが少なく、浸潤性のものが多かった。そのため治療を行っている』と聞いている」と答えられたことが、唯一印象に残っています。

17時に閉廷後、ミニ集会が行われ、次回からの期日予定などを確認しました。

次回第44回期日は、大阪地方裁判所で1月18日(木)午前10時開廷、午後5時まで、大法廷で*、5人の原告本人尋問が行われる予定です。

(文/豊高明枝 イラスト/安藤栄作)

*中法廷とこれまでお伝えしていましたが、大法廷に変わりました。

☆ 2024年11月までの期日予定:第45回期日2月29日(木)10:00~17:00(大法廷)/第46回期日4月25日(木)10:00~17:00(合議法廷)/第47回期日5月30日(木)10:00~17:00(大法廷)/第48回期日7月11日(木)10:00~17:00(大法廷)/第49回期日9月5日(木)10:00~17:00(大法廷)/第50回期日10月17日(木)10:00~17:00(合議法廷)/第51回期日11月28日(木)10:00~17:00(大法廷) 本人尋問は以降も続きます。

イベント・サークル・ボランティア情報

【枚方自閉症児(者)親の会】

自閉症だけでなく生きづらさを感じながら生きている人、その保護者や関係者の方々。どうぞフリートークでご参加ください。話すことにより、何か新しいことに気づけるかもしれません。

- ◆日時：1月15日(月) 10:00~12:00
2月5日(月) 10:00~12:00

◆場所：ラポールひらかた 4階共用ルーム

※連絡先 春名 072-397-0053 三浪 072-868-9929

【参加者募集】 放課後クラブ「チャレンジ・キッズ」 情報交換・交流会

- ◆日時：2月9日(金) 10時30分~15時くらい
(遅刻早退OK、出入り自由)

◆場所：ラポールひらかた 4階 研修室4

参加費：無料

主催：放課後クラブ「チャレンジ・キッズ」

問合せ：c-k@love-dugong.net または、
090-5893-5635 (16時以降 豊高)

(予定変更の場合もありますので、必ずご確認願います。)

子どものことで、迷ったときに相談したり、悩みを打ち明けられる場があればいいなあ……。そんな思いで集っています。支援者を交えて、気楽におしゃべり情報交換しませんか。

下記ブログにて、随時情報を掲載しています。

<http://ameblo.jp/challengekids81573/>

(「チャレンジ・キッズ」「アメブロ」で検索してください)

カウンセラー入門講座 ~講座体験&受講説明会~

心の支援についての基本的な取り組みを学べます。

- ◆日時1：1月30日(火) 10:30~12:00
1月30日(火) 19:15~20:45

◆場所1：ラポールひらかた(3階研修室1)

◆日時2：1月30日(火) 10:00~11:30

◆場所2：交野市立 青年の家(2階206号室)

◆参加費：無料

◆定員：各15名

◆申込・問合せ：NPO法人京阪総合カウンセリング
TEL 072-814-7140 メール jimu@npo-ksc.net
<http://www.npo-ksc.net>

応援よろしくお願ひします♪

LIP 応援団

LIP 会計報告 (前号以降)

金額(円)	内容
18,549	前号から繰り越し
▼744	郵送代
▼500	ロッカー代
▼4,600	12月号印刷代
12,705	計(次号へ繰り越し)

STOP WAR NOW STOP WAR NOW

■明けましておめでとうございます。いきなりですが、LIP 財政、またまたかなりピンチです。

1号あたり、5~6千円は必要なので、このままでは2月号あたりで残金がなくなりそう。応援のほど、よろしくお願ひします。

■実家の畑(岐阜県南部)でグレープフルーツが豊作です。植えて7年目? 昨年くらいから実がたくさん採れるようになり、今年は味も良くなりました。シークワサーも5年目くらいですが、今年はたくさんできています。どちらも寒くてムリだろうと思いながらダメ元で苗を植えてみたのですが、めっちゃ元気に育ってます。これも温暖化の影響でしょうか。喜んでいいのか、複雑なところ。 (w)

■LIPは市民が書き、市民が読む地域密着型情報紙です。あなたも紙面に登場してみませんか? ♪



枚方コーレん デビューしちゃう?

【ひらつーパートナー・ライト】

月額 5,610円

詳しくはコチラ⇒⇒



イラスト 表紙、P8: 平井由恵